



Subaru

男声合唱団

ニュースNo.682

19. 2. 25

千秋昌弘＆男声合唱団「昂」ジョイントコンサート=SIYAHAMBA(われらは進みゆく)=開催！ご来聴ありがとうございました

2月 22日



□2月22日(金)18:30~20:40いづみホールにて「千秋昌弘＆男声合唱団昂ジョイントコンサート」が開催されました。「うたごえ70周年 人生75年 愛と平和の歌い人テノール千秋昌弘第2回リサイタル 男声合唱団「昂」第12回コンサート」=SIYAHAMBA～われらは進みゆく～=のメインテーマのもと、37名の団員は午後1時に集合し、指揮者・ピアニストのもと、MC司会者・声楽指導の先生・ジャンベ奏者・振付師・舞台監督のご協力を得て、休憩をはさみながら、1時半から5時前までの最終打ち合わせ・リハーサル・ゲネプロを行い、6時30分開演の本番に臨みました。当日は寒い冬の平日夜の開催という、来聴いただくお客様には申し訳ないところお越しいただき、いづみホールをほぼ満席の状況での開催となりました。

□プログラム第1部は「昂」の<日本のうた>「春を待つ」のオープニングで始まりました。伊藤整の詩に多田武彦の作曲、本来はアカペラで歌われている名曲に土肥永津子がピアノ編曲した昂の愛唱歌、あたたかな春を待つ心情を静かにせつせつと歌い上げました。

続いて、日本歌曲の名曲のひとつ「浜辺の歌」(林光編曲(男声4部))。誰でも知っている曲

No.682(1/4)

を耳にし、会場は一気に明るくなつかしい雰囲気に包まれました。

1部の3曲目は佐藤信作詞・林光編曲の「ねがい」。闘うポーランドの労働者・「連帶」を支援して作曲した林光。ショパンのポロネーズをピアノ伴奏の中に取り込んだ圧巻の名曲・合唱曲。この曲も昴の愛唱歌の一つとして、これまでのコンサート（過去6回・7回・8回・9回・10回コンサートの5回）で歌い継がれ、聴く方々に感動を与えてきました。

1部の最後に、高田敏子詩・信長貴富作曲「夕焼け」を、「夕焼けが火の色でありませんように、血の色でありませんように」平和への切なる願いを込めて、心を入れて歌いました。



□第2部「千秋昌弘第2回リサイタル」が「おれは枕木」で始まりました。名司会林久美子さん。「うたごえの中で育った千秋昌弘 うたごえの中で生まれた「おれは枕木」。國の主人公であるべき労働者・勤労者、鉄道現場で働く日本の誇るべき国鉄マンの心意気を歌った「おれは枕木」



そして、「ヨイトマケノ唄」、圧巻の声量とことばの表現！「ヨイトマケの唄」の歌手＝千秋昌弘！！ 石川啄木の詩集中から「はたらけど」をうたう千秋昌弘！働く者の日常の気持ちを、生活のくるしみを、悩みをそして、ねがいを歌った曲・創作曲「私は歌う 愛を信じて」千秋が歌う世界のオペラ、プッチーニ作曲「トスカ」第3幕より「星は光りぬ（E lucevan le stele）」とビゼー作曲「カルメン」第2幕「花の歌（お前が投げたこの花は）」

歌手千秋昌弘が歌う歌曲の世界・普段の地道なレッスンの成果が現れた歌声がホールに響きました。

第2部の最後を千秋昌弘ソロ・昴合唱「君死にたまふことなかれ」で締めました。11回コンサートで披露し、2018年のうたごえ祭典合唱発表会で発表し、今回はいすみホールの聴衆の

皆様に聴いていただく幸せを昴団員は経験しました。よく響くホールで、「君死にたまふことなかれ」と、その心を歌い上げました。

□第3部は「昴」の新しい姿を見せる舞台、若々しい動き(踊り)をつけて「世界のうた」を披露しました。

1曲目はアメリカの歌「橋を作ったのはこの俺だ」ポップス調のリズムに合わせて、3人のソリスト(向井勝弘・川妻成美・奥村克美)が前に出て、聴衆に語りかけるように誇らしげに歌い、バックのコーラスがあとを引き立てる元気な男たちの語り。舞台は軽快な歌と動きで盛り上りました。

2曲目はロシア民謡「航路」テナー・伊藤知、バリトン・仲谷増広のデュエットが会場に静かに響き渡りました。3曲目は韓国の「朝露」。聴衆に隣の国の語り歌を日本語と韓国語で伝えました。



最後はアフリカの曲「SIYAHAMBA」～われらは進みゆく～今回のコンサートのメインテーマ曲、全団員が舞台の前に出て、伊藤知のテナーの“SIYAHAMBA～～”の元気な声の歌い出しと山本宏司が続くデュエット(二重唱)のハーモニー、三上摂さんのジャンベ・太鼓の鳴り響き、アフリカの大地に声と太鼓が鳴り響きました。しばらくして、中央部以外の暗転していた部分にも光が当たり、ピアノの伴奏とともに歌い手全員が同じ動きで踊りだし、SIYAHAMBAの元気な合唱が始まりました。「昴」にとっての新しい歌の試み、「若々しい」声と踊りに会場から拍子が鳴り出し、終演とともに会場は大きな拍手と激励の声援





が飛び交いました。

□最後に、千秋団長より、会場の皆様へお礼の挨拶を述べました。

「私たち昴は来年で 20 歳になります。2000 年に立ち上げて来年創立 20 周年、2020 年 5 月に創立 20 周年記念コンサートを開きたいと思っています。

私たち昴は、平和の歌を、生きていくことに勇気を与える歌を、人間の尊厳を守る歌を、そんな歌を大阪中に広めていきたい。そのためにも団員を今の倍に、倍増させたい。昴に是非入って下さい。一緒に歌いましょう。楽譜読めなくても良し！読めます。「声出ない、歌えない？」歌えます！

どなたでも大丈夫！入団していただくことを広く求めています。ご本人は是非入ってください！また周りの方々に「昴という歌える合唱団あるよ！」と勧めてください、と。」

アンコールに「このみち」と「昴」で「千秋&昴ジョイントコンサート」は幕を閉じました。

□お忙しい中を昴の合唱演奏を聴いていただくためにご来場いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。また、今回の開催にあたってご協力いただいた、司会・MC ご担当の林久美子さん、SIYAHAMBA 振付指導の文屋淳さん、ジャンベ奏者三上摂さん、声楽指導の嶋本晃さん、舞台監督の溝口隆徳さん、そして表方責任・スタッフの佐藤恵美子さん・吉本昭子さん・立川和子さん、ビデオ・写真の田中実さん・木下幸雄さん等いろいろとお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

なお、当日の参加者は、全 45 名でした。(団員 37 名 + 指揮者 + ピアニスト + 諸サポーター)

(また、ジョイントコンサートへの「アンケートのおねがい」に対し、当日 100 名近くの方々から、昴への貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。団の内部資料として団員全員に広報いたします。)



連絡事項・お知らせ

□2月19日(金)18:00～20:30 「千秋&昴ジョイントコンサート」に向けての最後のレッスンを行いました。佃さんの体操・本並先生の発声練習のあと、本並先生の指揮で、1部4曲を、本番を想定して、休憩をはさんで、2部4曲をレッスンしました。ピアノ伴奏は西應静さんでした。

2月19日